

第3回津山市総合計画審議会 議事要旨

平成27年3月23日(月) 10:00～

津山市役所 2階 大会議室

1. 開 会

2. 市民憲章唱和

3. 報 告 事 項

(会 長) ○今日はたくさんの報告事項があるが、その中からポイントを見つけていただき、積極的なご発言をお願いしたい。

マイケル・ポーターは、「国の競争優位」には、4つの条件(ダイヤモンド・フレームワーク)がある、としている。

○まず、要素条件。津山が、どういう人、資産を持っているのか。

2番目に、需要条件として、文化度の高さが評価される。

3番目は、関連産業。取って付けたようなものを作るのは難しいので、どういうクラスターがあるのか、見つめ直さなければならない。

最後に、競争が行われているかどうか。厳しい競争が行われているほど、国は強くなる。

○市として、勝手な思いつきではなく、きちんと調査をして、報告があるので、その結果を踏まえて、これら4つの要素がどう絡み合っていけば、津山が強いまちになれるのか、ということ、ぜひご審議いただきたい。

(1) 地区別懇談会での意見・提言等について

(事務局) ○「地区別懇談会での意見・提言等のまとめ」の説明

(委 員) ○参加者の年齢構成はどうだったのか。

(事務局) ○全員ではないが、参加者を対象としたアンケートへの回答者の平均年齢は、63.7歳。

若い世代の意見の聴取が必要なので、今後、取り組んでいく。

(2) 分野別懇談会での意見・提言等について

(事務局) 「分野別懇談会での意見・提言等のまとめ」の説明

「地区別および分野別懇談会の意見・提言等のまとめ」の説明

(会長) 最近、大学の間で最も話題に上がるのは、近畿大学の取り組み。

○「きんき」は英語ではあまり良い意味ではないので、「近大」に名称を変えている。

また「マグロ(養殖)」に絞った広報で、急速に応募者が増えている。

○実は、50年かかって、3代の教授が引き継ぎながら、取り組んだ成果。それを現在、中核に据えている。まさに、選択と集中である。そういうものを津山も作っていく、あるいは既にあるのであれば、磨いていかなければならない。

(委員) 若い女性の流出が、最大の問題だと考える。

短いキーワードで意見を集めることは重要だ。

中高大学生など、意見を聞きにくい層の声の反映の窓口として、市のホームページの、トップページの一番上のコーナーに、若い世代の意見を聴取するシステムは組み込めないか。

(事務局) ○若い世代ならではの感覚は重要であり、検討したい。

(会長) 岡山県のPRのキャッチフレーズ「もんげー」は、「すごい」ということしか言っておらず、「何が」すごいのか、を言っていない。

香川県の「うどん県」は、うどんに絞って、「何を」を言い続けている。近大であれば、マグロ。

○すごいことは、他にもたくさんあるが、敢えて絞っている。

「すごい」とだけ言って、二段階で、後から「何が」を言うのでは、インパクトが薄れ、コミュニケーションのロスが生まれてしまう。

○コミュニケーションにはそういう難しさがある。

(3) 懇談会でのアンケート調査結果概要(中間報告)について

(事務局) 「地区別及び分野別懇談会参加者に対するアンケート調査結果概要(中間報告)」の説明

(会長) 結果を見て、大変うれしく感じた。

○「まちの魅力をしっかり作ってください」、「そのために重点的に投資をして下さい」、また、年齢の高い方が多いにも関わらず、「若い人のために、政策を作ってください」という意見である。

こういった声を踏まえて、ご審議をいただきたい。

○一体、何をしたら、若い世代に喜ばれるのか、ということも、考えていただければありがたい。

津山の市民は、市の将来を考えておられるのだな、と強く感じた。

(委員) 転出の意向がある方や、津山市が好きではないと答えた方の、理由は把握しているのか。

(事務局) 現在、実施している、転出入者に対するアンケート調査では、転出入の理由を尋ねており、それを通じて見えてくるのではないかと。結果がまとまったら報告する。

(4) グループインタビュー・職員ワークショップの中間報告について

(事務局) 実施状況等について説明

(5) 新市建設計画に係る事業の進捗状況について

(事務局) 「合併特例債・過疎対策事業実施事業・地域別一覧」の説明

(会長) 270億ものお金が、どのように使われたのか。

○第5次計画では、お金の使い方について、選択と集中を行うことができるのか、が問われている。

○多額な費用がかかる事業であっても、予算を集中することで、実現し、成果を出すことが可能となる。

4. 協議事項

(1) 基本構想策定のための意見交換

(会長) ○これまでの報告の中で、市民が望んでいる方向は、かなり明確に示されているのではないかと。

まず、雇用の創出など、経済基盤をどう安定させるか。

○次に、津山と言えは「これ」という魅力をどう作るか。

○また、高齢者よりも若い世代や子どもたちのために何ができるか、といったことを考えてほしい、ということである。

○津山の方々は、津山をこの上なく愛しておられ、しっかりと将来を考えておられるということが、懇談会などを通じて表れている。

そういったことを踏まえて、ご意見をいただきたい。

○本日の審議会で出たご意見を踏まえ、基本構想案が策定され、次回、提案される。

(委員) ○市民には市政に対する苛立ちがあるのではないかと。

例えば、スピード感、思い切った発想の転換、選択と集中、津山と言えは「これ」という魅力、外からの視点の導入、が求められているのは、それらが欠けている、という指摘だ。

一方、このまま進めていくと、第5次総合計画は、総花的で、従来と変わらないものになってしまうと危惧する。

第4次総合計画を見直し、その課題から検討していくか、あるいは、市が早急に柱をまとめて、細部までそれが貫かれた案の提示をするのでないと、選択と集中ができないのではないかと。

(会長) 市としては、現在行っている、各種調査とマクロ的な分析を踏まえ、市民の皆さんの意見を真摯に聞きながら、スピード感をもって進めていこう、ということなので、ぜひ皆様のご意見をいただきたい。

(委員) 若い人が流出しないように、学童保育など、親が安心して働けるような環境整備が必要。

転出したいと考える理由を掘り下げ、対策を考えることが重要だ。

(会長) アンケート調査の「好きではない」「転出したい」という回答の理由について、次回、報告を。

(委員) 第4次総合計画を読んでも、どうしたいのか、そのために何をするのか、が伝わってこない。

第5次総合計画においては、人口を減らさないことが一番大事。そのためには、今後10年間のまちの中心となる年齢層に向けて、重点的に施策を行うべきだ。

第5次総合計画については、第4次総合計画を見直すのではなく、市民の意見に基づいて、新たに作るべきだと考える。

○必要があれば、分科会の設置なども検討してはどうか。

(事務局) ○10年後のまちづくりの大きな方向性を示す基本構想については、全体でご審議いただき、基本計画については、分科会も検討したい。

(会長) 例えば、横浜市は「待機児童ゼロ」を打ち出し、実現した。

メリハリをつけ、選択と集中を行えば、大きな事業でも、実現は可能ということだ。

「待機児童ゼロ」の裏には、女性の就業率と出生率の向上という目標がある。実際にこの両者が上がれば、多額の予算を投じたとしても、十分にペイすると言え、津山において、それに当たるのは何か、を考えていただきたい。

(委員) 合併して10年が経過したが、旧町村の住民(自身も旧久米町)からは、合併してよかった、という声が少ない。

ぬくもりのある行政が運営されているのか、何が幸せなのか、といったことを考えさせられる。

○美作地区の他市町村と比べ、高齢者へのやさしさが足りないのでは。行政サービスの面で、支所の対応は課題。何でも本庁に聞かないといけない、ということでは困る。

(会長) 次回、久米地区での懇談会で出た意見のまとめの報告を。

(委員) ○基本構想については、第4次総合計画の見直しではなく、市民目線で、事務局案を示していただければよいと思う。

各地区の特色を活かした計画になるように、大枠のブロックごとくらしいの考え方を示してほしい。

(委員) 高齢化の状況を踏まえると、公共交通の整備は、喫緊の課題だ。

若い人が安心して働けるためには、高齢者が自分で病院や買い物に

行ける環境の整備が必要だ。

- (委員) 津山市内の各地域にそれぞれの役割があるのではないかと。周辺自治体の中での、津山市の役割も示されるべき。市民と地域と企業が有機的につながる雰囲気は大事ではないかと。子育て・教育を柱として、行政分野を超えて取り組む姿を打ち出し、思いが伝わる具体的な施策を示すことで、津山に住んで、子育てをしたい、と思われるまちになるのではないかと。
- (委員) ○定年後に働ける場所をつくるべき。津山を売る、津山の名を上げるために、スポーツを柱にしては。将来を見据えた農業施策、特に、企業も含めた新たな生産体制の構築が必要ではないかと。
- (委員) ○肉体的にも、精神的にも、健康な人をつくるのが重要。特徴を持った津山にすることは必要だ。遊ぶ場所がないから若い人が流出する、という声があるが、与えられるのを待つのではなく、スポーツでも文化でも、自ら見出せる場所、コミュニケーションがとれる場所があればいいのではないかと。
- (委員) ○地域おこし協力隊員の面接の中で、中途半端な田舎よりも、阿波のような場所がいい、そういうところを掘り起こしたい、という声があった。小さな地域が見直されていると感じている。小さな地域でも、総花でなく、思い切った施策を打ち出してほしい。
- (委員) ○企業の進出には、立地・交通条件が重要ではないかと。住みやすく、安全なまちであれば、社員にとっても魅力がある。津山出身のウェストランドというコンビニの名前は、ウェストランドで遊んだ楽しい記憶が由来だ。そういう魅力づくりが重要。
- (委員) 鶴山公園の桜やオーエヌ工業など、「日本一」の紹介や打ち出しは、魅力になるのでは。戦災にあっていない古いものが残っているのも、津山の魅力。旧町村地域も、それぞれの特色や魅力がある。先日、ごんごバスに乗る企画をしてみたが、意外と便利で、運転手さんも親切だった。時刻表が分かりにくいのは課題。
- (委員) ○住みやすいまち、行ってみたいまちにするために、どれだけ選択と

集中ができるか、が最も重要。

この審議会には、各分野・団体の代表者が参加しているが、私たちが、選択と集中に合意できるか否かで、従来の計画と同じか、実効性のある新たな計画にできるか、が決まる。

(委員) ○人口減少対策が、最も重要。そのための選択と集中を行う施策を、具体的に考えるべき。

(会長) ○審議会委員として、出身地区や団体の利益ではなく、市全体のことを考えてほしい。

○選択と集中により、何に資源を充てるのか、を決めねばならない。次回以降、事務局案を審議したい。

事務局案の策定に当たっては、皆さんの意見を取り入れつつ、しかし、選択と集中を心がけ、総花にならないようにしてほしい。

5. その他

(1) 今後のスケジュールについて

(事務局) ○今後のスケジュールについて説明

(2) 次回開催日について

(事務局) ○次回は、平成27年6月4日(木) 13時30分から。

6. 閉 会